

# 発達障がい

発達のアンバランスさがあり、置かれている環境によって生活に支障がでる場合に、発達障がいと診断されることがあります。発達障がいは、次の3つがよく挙げられます。

## 自閉症スペクトラム障がい(自閉スペクトラム症:ASD)

### 人のかかわり方、人前でのふるまい、コミュニケーションの特徴

相手がどう考えているか、どう思っているのかを感じとったり、また、自分は周りからどう見えているか、自分のふるまいが場にあったものかどうかを客観的にみることに苦手さがあります。

### 想像力(イマジネーション)の特徴

目に見えないものはわかりづらく、不安になったり混乱したりすることがあります。そのため、物の置き場所、手順、スケジュールなどが分かりやすく決まっていると安心できます。

### 感覚のアンバランスさ(過敏さ、鈍感さ)

特定の音(エアコンなどの生活音、怒鳴り声、赤ちゃんの泣き声など)が苦痛だったり、にぎやかな場所で、たくさんの音の中から、相手の話し声だけに耳を傾けることが難しいという人もいます。また、暑さや寒さに鈍感で、夏なのに厚手の服を着たり、冬でも薄着という人もいます。

### たとえば…

- ・授業中にピントのずれた発言や、質問をたくさんして授業をストップさせてしまうことがある
- ・仲間とトラブルになることや、孤立することもみられる

※以前は「自閉症」、「アスペルガー症候群」、「広汎性発達障がい」と分かれていましたが、今はひとつの連続したものとしてとらえる傾向にあります。



### 自分の場合…

- ・人の気持ちが分かりにくいことがある。  
何気なく良いと思ってしていることが迷惑な時、  
その場でどんなことがまずかったのか伝えてくれるとわかりやすい。
- ・苦手なことはあるけど「向いていない」の一言で終わられるととても傷つく。
- ・忘れやすさにはメモをとるなど工夫はしている。

# 発達障がい

## 注意欠如・多動性障がい(注意欠如・多動症:ADHD)

### 不注意

注意を持続することが難しいため「忘れ物が多い」、「物をなくしやすい」、「片づけられない」といった特徴があります。また、注意の配分や切り替えが苦手なため、「ボーっとしていて、話を聞いていないように見える」、「興味があるものには集中しすぎてしまい、切り替えが難しい」といった状況も起きます。

### 多動—衝動性

「授業中に歩き回る」、「落ち着きがない」、「よくしゃべる」などの行動(多動)は、子どもの頃には見られますが、大人になると目立たなくなると言われています。また、タイミングや状況を考慮せず、思いついたことを口にしたり、行動してしまうので、待てないといった特徴もあります。

### たとえば…

- ・指示を聞き間違えたり、聞き逃したりすることが多い
- ・優先順位をつけることが苦手なため、締切や約束に間に合わない

※これらの特徴によって、周囲から「だらしない」、「あてにならない」と誤解を受けやすく、本人も自信をなくしたり、自己嫌悪に陥ることがあります。



## 学習障がい(LD)

学習障がいは、知能など他の能力に問題がないのに「読む」、「書く」、「計算する」、「聞く」、「話す」、「推論する」のどれかあるいは複数に著しい困難があり、学業や生活の中でつまずきが起ることを指します。読み書きの困難さを例にあげると、まったくできないということではなく、「滑らかに読めない」、「間違いが多い」、「長文を目で追っていくのが難しい」などの苦手さがあります。

### たとえば…

- ・話を聴きながら、ノートを取ることが難しい
- ・読むのに時間がかかる
- ・相手に分かりやすいように筋道立てて話したり、考えをまとめて文章にすることが難しい(レポートなど)

※これらの特徴は学習障がいと認識されず、周囲からは「単に勉強ができない学生」と誤解されることもあります。

